

令和8年7月8日

令和8年度学長表彰受賞者の決定及び表彰式の実施について

福島大学では、本学の教育・研究・社会貢献活動において顕著な貢献があった教員に対する学長表彰制度を設けております。教育・研究・社会貢献の各分野における教員の優れた業績をたたえ、それらの取組内容や成果等を学内外に広めることにより、本学の諸活動のより一層の推進を目指しております。

このたび令和8年度の受賞者が決定し、表彰式を下記のとおり実施しますのでお知らせいたします。なお、学術研究表彰は13回目、社会貢献表彰は10回目の表彰式となります。

<表彰式>

○日 時：令和8年7月21日(火) 10時30分～

○会 場：事務局大会議室（事務局棟4階）

○受賞者：

表彰区分		氏名	業績名
研究	学長学術 研究表彰	吉田 樹 経済経営学類 教授	市街地へのオンデマンド交通導入の効果 と供給面の課題
研究	学長学術 研究表彰	吉田 龍平 共生システム理工学類 准教授	東北と九州のコメ生産額が気候変動によ って受ける影響のリスク評価
研究	学長学術 研究表彰	寺田 圭 食農学類 准教授	生体インピーダンス法による背脂肪厚測 定法の開発及び銘柄豚「フジキンカ」の 枝肉取引基準の提案
研究	学長学術 研究奨励賞	廣本 由香 行政政策学類 准教授	パインと移民ー沖縄・石垣島のパイナッ プルをめぐる「植民地化」と「土着化」 のモノグラフ
社会 貢献	学長社会 貢献表彰	望月 翔太 食農学類 准教授	野生動物管理および鳥獣被害対策を通じ た地域社会への貢献

※表彰式の取材へのご協力よろしくお願いいたします。

当日は5分前までに会場にお越しください（写真撮影可）。

（お問い合わせ先）
人事課労務係 加藤
電 話：024-548-8008
メール：roumu@adb.fukushima-u.ac.jp

令和8年度学長表彰被表彰者一覧

表彰区分		表彰要件	氏名	業績名
研究	学長学術研究表彰	〔第4条第二号イ 学会賞等のうち 最高位の賞等 受賞など〕	吉田 樹 経済経営学類 教授	市街地へのオンデマンド交通導入の効果と供給面の課題 【業績内容】 オンデマンド交通は、利用希望者が事前予約を行い、柔軟に経路やスケジュールを変更しながら運行する乗合型の公共交通である。乗降地をきめ細かに設定できるメリットがある一方、単位時間あたりに輸送可能なトリップ数（移動数）は限られるとされ、人口密度が相対的に高い市街地でオンデマンド交通を導入した際の効果や課題を整理した研究は、これまでほとんど行われていなかった。 被表彰者は、地域住民の利用実績データやアンケート調査を用いて、オンデマンド交通が外出回数や目的地の増加に寄与し、アクセシビリティ向上に貢献していることを明らかにした。一方で、車両1台当たりの対応可能オーダー数（需要）には上限があることや、多数の車両の同時運行が必要とされる時間帯があることなど、供給面で規模の経済性を発揮しにくいという課題があることを示した。 これらの研究成果は、日本福祉のまちづくり学会大会第28回全国大会において、学術性、新規性、多領域連携やプレゼンテーション力の観点から高く評価され、最も優れた発表に贈られる優秀賞を受賞した。
研究	学長学術研究表彰	〔第4条第二号イ 学会賞等のうち 最高位の賞等 受賞など〕	吉田 龍平 共生システム理工学類 准教授	東北と九州のコメ生産額が気候変動によって受ける影響のリスク評価 【業績内容】 気候変動が日本のコメ生産に与える影響について、質と量の変化によるコメの生産額低下が懸念されているが、統計的に推定した一部の研究例を除き、詳細は明らかになっていなかった。 被表彰者は、気候予測データに基づいて水稲生育シミュレーションを行い、東北産ひとめぼれと九州産ヒノヒカリを対象に、モデル収量と一等米比率の変化から、今後のコメ生産額への影響を推定した。 その結果、現在と比較して世界の平均気温が4℃上昇した場合、コメの生産額は東北では93.9%、九州では75.9%に減少し、気温1℃上昇ごとに東北で70億円、九州で120億円の経済損失が見込まれることを示し、主因として一等米比率の減少に加え、九州では収量の減少も影響するとした。いずれの地域でも昇温の程度によらず田植え日の早期化が効果的であると、現在の品種や栽培状況では生産額の低下を避けることは難しく、気候変動に適応した高温耐性品種の導入と田植え日の調整が不可欠であることを明らかにした。 本論文は、日本の水田農業における気候変動に対する適応策の観点から、リスクアセスメントとしての社会的意義を有し、科学的データをもとに社会に貢献する研究であると評価され、日本農業気象学会2026年全国大会で論文賞を受賞した。
研究	学長学術研究表彰	〔第4条第二号イ 学会賞等のうち 最高位の賞等 受賞など〕	寺田 圭 食農学類 准教授	生体インピーダンス法による背脂肪厚測定法の開発及び銘柄豚「フジキンカ」の枝肉取引基準の提案 【業績内容】 豚の背脂肪厚は枝肉等級や価格に大きく影響する重要な形質であるが、従来の超音波検査では体毛除去の手間が課題となっていた。近年、体毛の除去を必要としない生体インピーダンス法（電気抵抗を利用して生体の組成を推測する手法）が開発されたが、肉豚における背脂肪厚推定への応用や、出荷後の枝肉背脂肪厚評価を予測する手法は十分に検討されていなかった。 被表彰者は、体毛除去が不要な生体インピーダンス法を肉豚に応用し、ハンディ型測定器を用いて得られた結果から、簡便な背脂肪厚推定を可能にした。さらにロジスティック回帰式（ある事象が起きる確率を予測するための計算式）を作成し、出荷後「厚脂」と判定される確率を事前予測する手法を確立した。また、銘柄豚「フジキンカ」の特性を明らかにし、相対取引における評価基準を提案した。加えて、飼料管理によりフジキンカの過剰な背脂肪蓄積を抑制できる可能性を実証した。 以上の成果が評価され、2025年度日本養豚学会賞第56回丹羽賞（学術賞）を受賞した。
研究	学長学術研究奨励賞	〔第4条第三号イ 若手研究者への 奨励賞等受賞など〕	廣本 由香 行政政策学類 准教授	パイと移民－沖縄・石垣島のパイナップルをめぐる「植民地化」と「土着化」のモノグラフ 【業績内容】 被表彰者は、「モノ」と人との関係や「モノ」と地域との関係を調査することで浮かび上がる、地域が抱える課題や社会の構造的問題を研究してきた。石垣島におけるパイナップル（パイ）生産に焦点を当て、実際にパイの出荷や事務の手伝いをしながら10年間に及ぶフィールドワーク調査を行った。戦前からその栽培を担ってきた台湾移民と、戦後の開拓移民（県内移民）といった「周辺化」「他者化」されてきた移民一世と二世の生産者の生活環境史を、多数の資料やインタビューを基に業績名の論文（モノグラフ）にまとめ、書籍化するに至った。 調査研究は、パイ生産に励んだ移民一世の歴史、生産地域の環境、そしてパイ生産を継いだ移民二世の実質的な取り組みに着目している。島嶼の地域経済を支えたパイ産業史や生活史を発達させてきたプロセスに迫っており、厳しい環境と差別と戦いながら、パイ生産を通して地域社会の居場所を築き、社会的承認を得て「土着化」するまでの軌跡の記録でもある。 第8回環境社会学会（著書の部）では、「植民地化」と「土着化」という、極めて普遍的で重要な問題系をパイという農作物から解きほぐしたオリジナリティにとんだ著作であると評価され奨励賞を受賞、このほか第18回（2024年度）地域社会学会奨励賞（個人著作部門）、第36号（2025年度）日本村落研究学会研究奨励賞（著書の部）で奨励賞を受賞した。

<p>社会 貢 献</p>	<p>学長社会貢献表彰</p>	<p>第3条第二号口 地域・国際社会の活性化や 発展に対する社会貢献</p>	<p>望月 翔太 食農学類 准教授</p>	<p>野生動物管理および鳥獣被害対策を通じた地域社会への貢献</p> <p>【業績内容】 被表彰者は、野生動物管理学の知見を活かして、地域社会が直面する鳥獣被害問題の解決に向けた研究を行ってきた。 福島県、福島市、農林水産省の鳥獣対策アドバイザーを務め、自治体の鳥獣被害対策の立案や現場対応への技術的助言を通して自治体の鳥獣被害対策を牽引している。加えて、被害の最前線である地域に直接入り、集落単位での実践的な被害対策支援や出前講座も多数実施しており、現場での被害低減に尽力してきた。 近年頻発するクマの出没問題に対しては、メディアを通じた社会啓発にも積極的に関わり、2025年度は新聞記事19件の掲載をはじめ、テレビ・ラジオにも多数出演し、県民への迅速かつ的確な情報発信と注意喚起を行ってきた。 このほか、福島市内の小学校を対象としたクマの防災教室を企画・開催しており、2025年度は8校で実施、2026年度は11校で実施が予定されるなど、幼少期からの野生動物との共存や自己防衛に関する正しい知識の普及拡大にも力を注いでいる。 これら被表彰者による活動は、クマをはじめとする鳥獣被害問題を抱える自治体や地域社会の課題解決に大きく貢献しており、果たしてきた役割は顕著である。</p>
-----------------------	-----------------	--	-------------------------------	---